

公共交通利用促進策の検討

(1) 生活交通ネットワーク計画における公共交通利用促進のための取り組み

① コンパクトなまちづくりの推進

「夕張市まちづくりマスタープラン」において目指すこととしているコンパクトな都市将来像の実現に向けて、都市施設の集約化や居住エリアの郊外から市街地への移転などの取り組みを進めることにより、目的地などが集約されたまちの形成が推進され、公共交通が利用しやすいまちが構築されることとなる。

② DMVやデマンド交通の体験乗車会の実施

新たな交通システムに対する抵抗感を減らすとともに、導入に向けた市民の気運醸成を図るため、DMVやデマンド交通などの体験乗車会を実施する。

③ 意識啓発活動

夕張市が抱える公共交通の問題を解決するためには、市民、行政、交通事業者及び市内企業が、公共交通の現状と都市と交通の将来像に対する認識を共有し、当事者意識を持って、利用促進等、様々な取り組みを推進する必要がある。

このため、「市長とのふれあいトーク」など、市民との対話の機会を活用して、公共交通への意識啓発を図っていく。

④ ノーマイカーデーの実施

公共交通の利用促進を図るため、市民、行政及び市内企業の協力のもと、マイカー利用を控えて公共交通を利用する「ノーマイカーデー」の取り組みを推進する。

⑤ 送迎サービスとの連携

医療施設等の送迎サービスにおいて、サービスの弾力的運用やJR・バス等との接続など、公共交通と連携した取り組みの可能性について検討を行う。

⑥ 交通情報の一元提供

鉄道や路線バス・都市間バスだけでなく、老人福祉センターの送迎サービスなど多様な交通機関についての情報を一元的に提供することで、利用者が自身の都合に合わせた交通機関を選択したり、組み合わせたりすることができるようにする。

また、DMV等の新たな交通システムについても、導入次第、一元化された情報に組み入れるようにする。

⑦ 敬老パスの継続と改善

現在、市で行っている敬老パスの継続を図るとともに、高齢者を含む交通弱者の支援に向けた改善方策を検討する。

(2) 事例等の調査

- ・「夕張市生活交通ネットワーク計画」で設定されている公共交通利用促進のための7つの取り組みのうち「ノーマイカーデーの実施」「交通情報の一元提供」に関連・類似する事例を収集・整理する。
- ・事例収集にあたっては、国土交通省や運輸政策研究機構により、公共交通に関する取り組みについて事例集が作成されており、これらの事例集を参考にしながら幅広く収集、整理する。

表 公共交通利用促進等の取り組みに関する既存の主な事例集

事例集の名称	作成者	事例数・事例集の特徴など
地域公共交通の活性化・再生への事例集	国土交通省 総合政策局 交通計画課	102事例（うち道内4事例） 平成20年3月現在。バスの取り組み例が中心。
地域のモビリティ確保支援事例	国土交通省 政策統括官	262事例（うち道内15事例） 事例は公共交通全般。 幅広くP&R等も含む。
公共交通活性化事例	運輸政策研究機構 (公共交通支援センター)	1,280事例（うち道内41事例） 平成21年までの論文等や運輸政策研究機構の現地調査等から整理され、公共交通全般で幅広い。

① ノーマイカーデーの実施

ノーマイカーデー ①		山口県 宇部市			
スマート通勤活動の推進					
①人口	173,678 人	②面積	287.71 km ²	③人口密度	603.7 人/km ²

概要

- 山口県宇部市は、行政・企業・交通事業者・市民から構成される「宇部市地球温暖化対策ネットワーク低炭素地域づくり協議会（通称：スマート通勤宇部市民会議）」を設立し、マイカーからのCO₂排出量を削減するため、平成 21 年度に行ったスマート通勤キャンペーン事業を継続実施し、スマート通勤事業所の拡大、スマート通勤者の拡大の検討を行い、通勤に関する「低炭素地域づくり計画」を平成 22 年度に策定。
- その後、「宇部市地球温暖化対策ネットワーク（UNCCA）宇部スマート通勤協議会」により、エコ通勤の普及・拡大を含めた「環境にやさしい交通づくり」の推進活動を行っている。

効果・工夫

- 平成 21 年度および平成 22 年度に、環境省の「低炭素地域づくり面的対策事業」に採択され、「職場モビリティマネジメント（エコ通勤）」と「自転車利用促進事業」の取り組みを行い、平成 22 年度事業の成果として「低炭素地域づくり計画」を策定した。
- 平成 23、24 年度の「エコ通勤の普及・拡大」にあたっては、以下の取り組みを実施。
 - 「宇部スマート通勤協議会」を組織し、スマート通勤の普及拡大を協議・実施。
 - 賛同事業所を募り、スマート通勤の実施と「エコ通勤優良事業所」の認定を支援。
 - スマート通勤キャンペーン（11 月をスマート通勤月間として参加呼びかけ）
- スマート通勤の取り組みにあたっては、「宇部スマート通勤マニュアル（管理者編および従業員編）」、「スマート通勤のすすめ（パンフレット）」、「スマート通勤キャンペーンポスター」を作成し、ホームページ上で公開しているとともに、「スマート通勤を考える会」という講演会やミニワークショップを実施している。

<成果>

- 2010 年 9 月～11 月の 3 ヶ月間で実施した「スマート通勤キャンペーン」では、自分で目標を立て、通勤状況を「スマート通勤カレンダー」に入力した。その成果は以下の通り。
 - 36 事業所、サポーター 76 人、一般 21 人が参加。
 - サポーターのスマート通勤実施率 54% を達成。
 - CO₂削減効果は、4052.2kg-CO₂（ドラム缶 10,249 本相当、吸収に必要な 50 年生の杉 287.7 本分）を達成。



資料：2012 年度環境にやさしい交通づくり推進活動 HP：<http://ubeondanka.net/kyk2012-top.html>

② 交通情報の一元提供

一元情報 ①		埼玉県 三郷市			
バス路線再編にあわせたバスガイドブックの発行・全戸配布					
①人口	127,783 人	②面積	30.16 km ²	③人口密度	4236.84 人/km ²

概要

- 三郷市は、市自らが交通実態と需要の調査を行い、路線の設定、バス停位置の設定、ダイヤの設定等を行い、その上で運行費補助なく運行可能という前提のもとに、運行事業者を募り、「地域コミュニティバス」を積極的に導入し、新規参入を含む民間事業者のバス路線を新設した。
- バスを中心とした公共交通網の充実にとともに、市民のバス利用をさらに促進するため、2002 年度（平成 14 年）に「みさとバスガイドブック」を、またつくばエクスプレス開業によりバス路線の大きな再編があった 2006 年度（平成 18 年）に「新みさとバスガイドブック」を作成。
- 市内全世帯（約 5,200 世帯）及び転入時に市役所の窓口で配布された。
- 内容は、市内全路線の時刻表や路線図、バスの乗り方が紹介されている。

効果・工夫

- バスガイドブックは 50 頁程度の A4 判の小冊子。
- バスガイドブックの情報を市のホームページに掲載。
- ダイヤ改正などの情報も町内会を通じて配布。
- 市内全域から利用のある 5 つの公共施設へのアクセス方法や市内に 10 箇所ある乗り継ぎバス停留所（例：三郷駅、新三郷駅、市役所）、さらに、バスの上手な利用方法としてサイクルアンドバスライドの案内などを掲載。

新みさとバスガイドブック

乗り継ぎポイントのご案内

文化会館

参考：「公共交通活性化事例」（運輸政策研究機（公共交通支援センター））

子供向けのバスガイドブック

①人口	---人	②面積	---km ²	③人口密度	---人/km ²
-----	------	-----	--------------------	-------	----------------------

概要

- ・西日本鉄道は平成24年9月、小学生に向けた西鉄バスのガイドブック「それゆけ！バスキッズに
してつバスたんけん隊」を発行した。
- ・ガイドブックは、小学生をメインターゲットとしてバスの車両や乗車方法、安全や環境への取
組み、バスで行ける福岡のおすすめ観光スポットなどを紹介している。

効果・工夫

- ・バスについて楽しく知ってもらえるよう、イラストや写真を多用し、マップやクイズなどを用い
ながらお子さまにも分かりやすい内容・レイアウトとした。
- ・ガイドブックは、バス営業所で開催する「バスの乗り方教室」や各種イベントで配布するほか、
福岡市内の小学校に配布する予定。



〈構成〉

ページ	内容
P1～2	バスの魅力や環境にやさしい「にしてつバス」の取り組みを紹介。
P3～4	にしてつが保有するバス車両の種類やデザイン、機能のほか、観光利用に適した福 岡シティループバス「ぐりーん」や「福岡オープントップバス」を紹介。
P5～6	にしてつバスでの安全対策やバリアフリーの取り組みを紹介するほか、「にしてつバ ス」に関するクイズも出題。
P7～8	運転士が営業所に出勤してから勤務を終了するまでの一日の流れを、レポート形式 で分かりやすく紹介。
P9～10	乗りたいバスの見分け方や乗車・降車方法、運賃の見方など「バスの乗り方」を紹介 するほか、バスの接近状況を検索できる「バスナビ」を紹介。
P11～12	天神から「にしてつバス」に乗って行ける福岡の人気おでかけスポットを、各施設の説 明や目的地までの行先番号と一緒に紹介。
P13	今まで紹介してきた「にしてつバス」に実際に乗って、乗車日付や行き先、そのとき の感想や出来事を思い出として記録する。
P14	福岡大学の辰巳浩教授にご協力いただき、公共交通の利用について保護者の方に 向けたメッセージを掲載している。

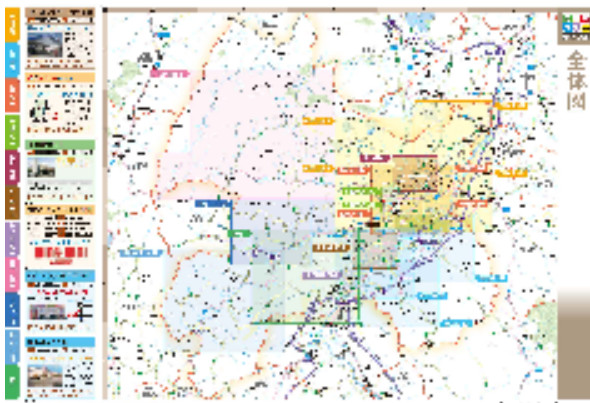
※ その他バスガイドブック・公共交通マップの事例

●長野市バスガイドブック（長野市）

<地区別マップ>



<全体図>

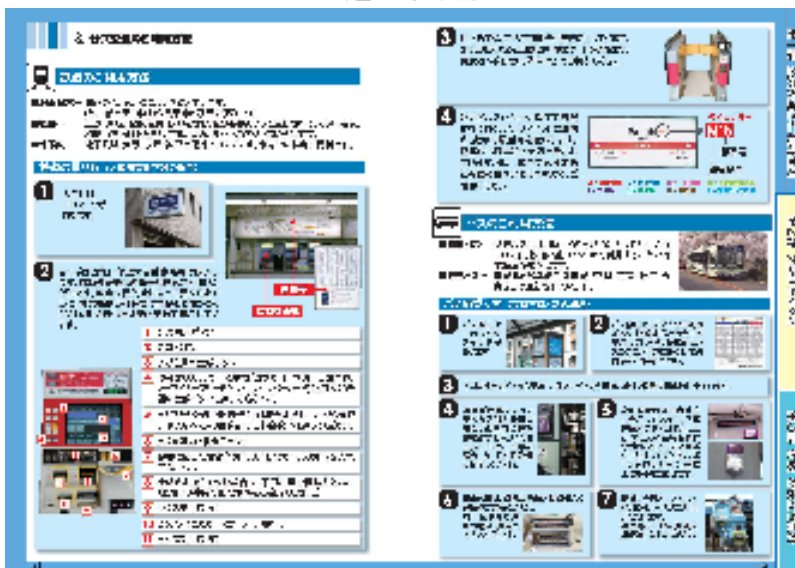


<切符種類>



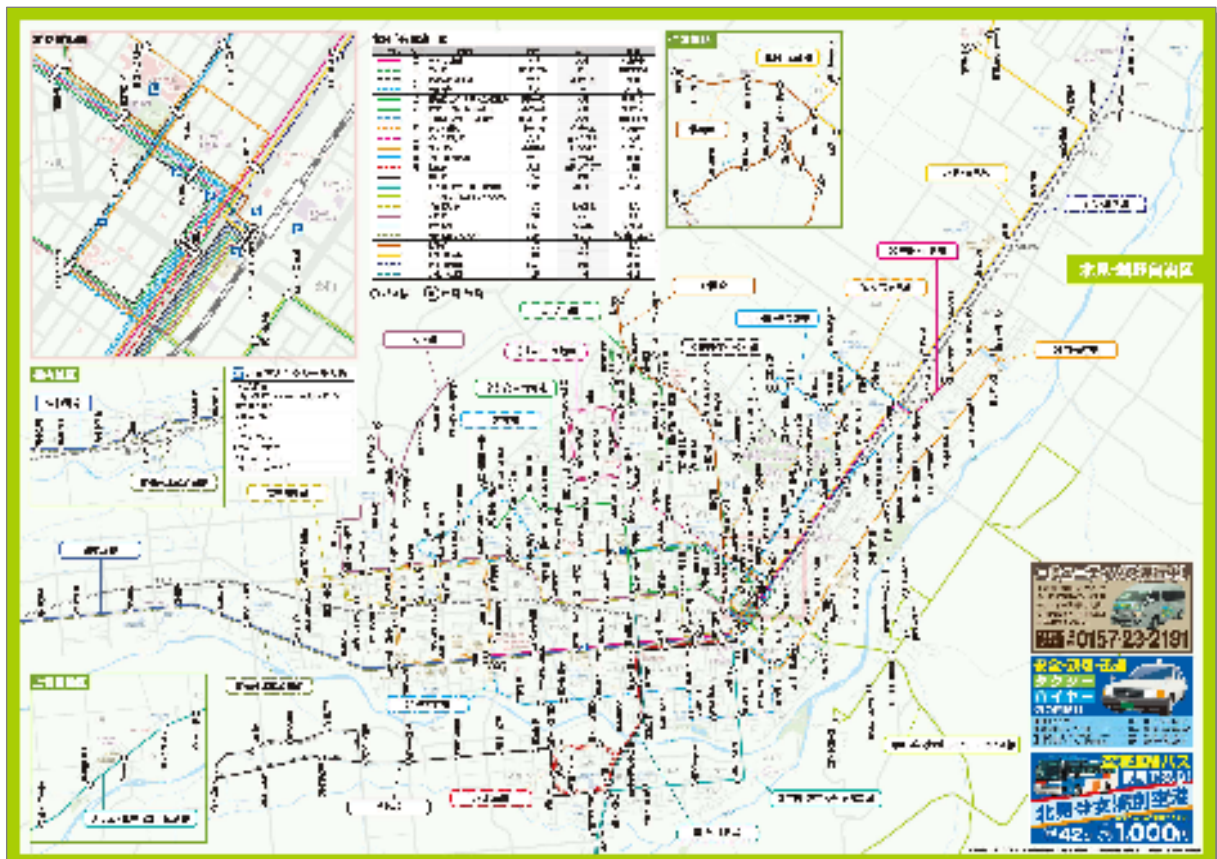
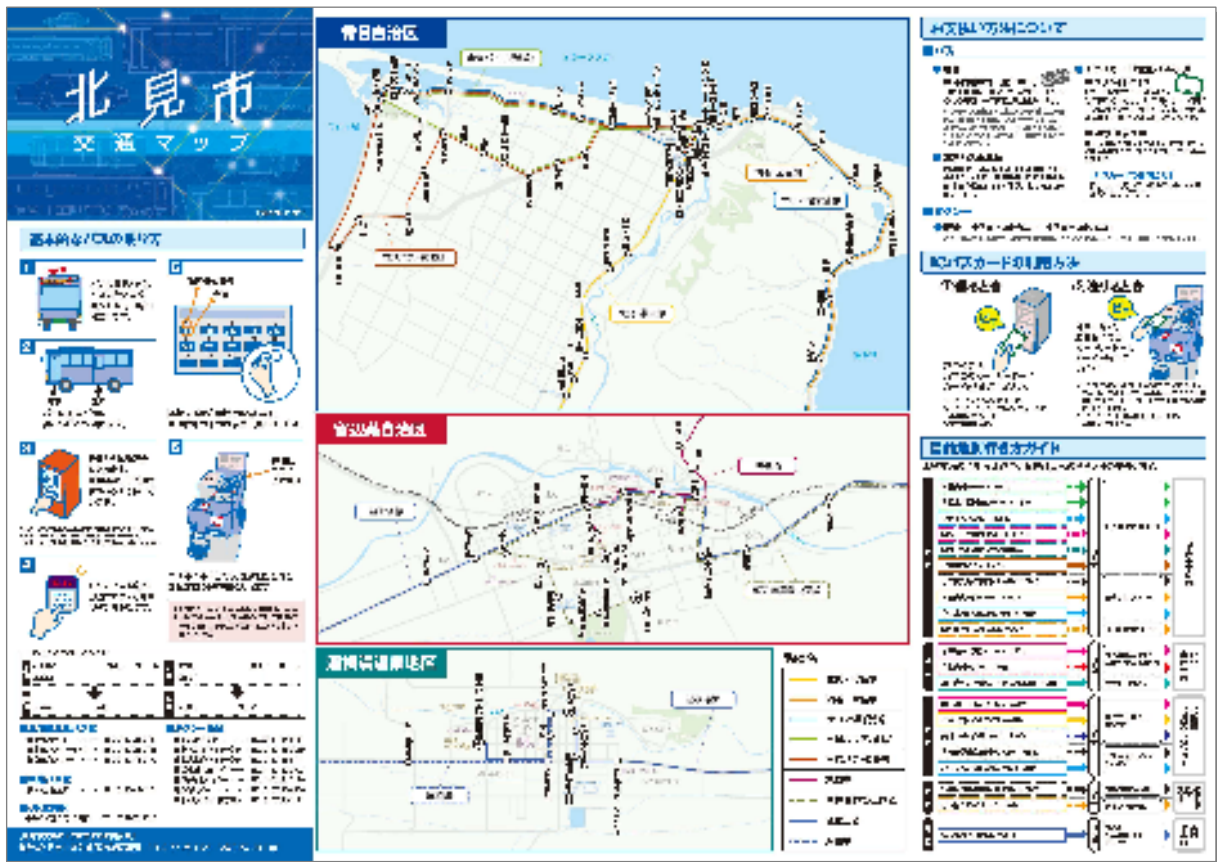
●公共交通利用ガイドブック（関西国際空港を玄関口としたホスピタリティ推進協議会）

<公共交通の乗り方>



●北見市交通ガイドマップ（北見市）

<折りたたみ式マップ>



一元情報 ③		十勝バス			
バス利用を促進する地道な活動					
①人口	---人	②面積	---km ²	③人口密度	---人/km ²

概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2006 年、十勝管内の路線バス利用者数は最盛期の 2 割に満たない 393 万人まで落ち込んでいた。 ・ しかし、バス利用者を増加するため、地域住民にヒアリングやアンケート調査を実施したところ、そもそもバスの行き先や運賃の払い方や整理券の使い方など、「バスの乗り方が分からない」からバスを利用しないことが明らかになった。 ・ そこで以下の活動を地道に実施したことで、バス利用者を増加することが可能となり、活動の結果、2012 年 3 月期決算で 40 年ぶりに増収に転じることとなった。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ バスの行き先や発車時刻など、地域ごとの詳しいバス情報を目的別に周知。 ➤ 帯広市の協力で作成したバスマップの中で、バスの乗り方を図解で説明。 ➤ 高校へ生徒を送迎する親に対し、ガソリン代などを含めるとマイカーによる毎日の送迎はバス以上に負担がかかることを比較したチラシを配布。配布先は帯広市職員にも拡大。 ➤ 60 歳を超えて運転免許を返上する高齢者へのバスの講習会。60 歳を超えた運転免許返上者のバス運賃は半額。 ➤ 小学生を対象にしたバスの乗り方講座。 <p>※その他十勝バスによるバス利用促進の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 通学・通勤定期券で、「土日祝日」「年末年始」は市内乗り放題 ➤ 休日、市内小中学生は均一の割引料金 ➤ まちなか食遊日帰り路線バスパック（まちなかまでのバス利用者は、ランチ&ショッピング割引特典が受けられ、さらに帰りのバス運賃が半額になる。） ➤ 買物共通バス券（参加店で 2,000 円以上の買い物をすると、100 円の「買物共通バス券」を受け取ることができる。） 	

※資料：十勝バスホームページ、北海道新聞記事（平成 25 年 2 月 7 日）

③ その他

その他①		長野県 上田市			
自治会による回数券の発売					
①人口	159,604 人	②面積	552 km ²	③人口密度	289 人/km ²

概要

- ・別所線存続運動の取り組みとして自治会回数券を発売。地方自治体、地元自治会を中心としたNPO法人「別所線電車存続期成同盟会」が電車存続に向けた取組とし自治会回数券の販売を斡旋。
- ・当初、自治会回数券は年2回（春・秋）販売され、有効期間6ヶ月、20枚綴りで割引15%であり、一般回数券の割引率9%に比べ割安に設定されていた。さらに平成18年度より有効期限が1年、販売期間を2ヶ月に延長し、購入特典として市内循環バスの無料乗車券等を付与し、売り上げが増加。結果として、自治会組織がマイレール意識を持つことにより、存続運動の機運が向上した。

効果・工夫

- ・別所線は、観光地の別所温泉と上田駅の間を約30分で結ぶローカル線である。沿線には、文化財が多く点在し田園風景が広がる地区を運行している。昭和40年代までに旧上田交通の鉄道の5路線のうち4路線が廃止され、昭和48年には唯一残っていた別所線の廃止申し出があった。
- ・当時、通学や観光客の足を守りたい地域住民と別所温泉の旅館組合等に危機感が生まれ、住民が主体となって市などに陳情を行うなど積極的な存続活動が行われた。
- ・市長のリーダーシップにより、公的支援を決め事業者と運行協定を締結。また、関係団体で協議会を立ち上げ、再生計画を作成。市、鉄道事業者、市民団体が三位一体となって別所線の存続のために取組を行うこととし、「乗って残そう」をキーワードに利用促進策に取り組んでいる。
- ・平成12年頃から有効期間が半年で割引率が15%の自治会回数券は販売していたがあまり知られていなかったこともあり、購入者数は横ばいが続いていた。しかし、平成18年に有効期間を1年に変更するとともに、沿線自治会への回覧板、市の広報誌、有線放送での周知、全戸への申込書の配布、各駅へののぼり旗の設置など積極的なPRを図ったことにより、購入者数は増加している。

※別所線電車存続期成同盟会

- ・事務局：上田市地域交通政策課
- ・構成団体：別所線沿線自治会、別所温泉観光協会、別所温泉旅館組合、別所温泉財産区、塩田地区振興会連絡協議会、上田交通労働組合ほか
- ・主な活動：マイレールチケット（自治会回数券）販売あっせん、別所線沿線写真撮影会、写真コンテスト、別所線無料レンタサイクル

区間	普通回数券 20回分 （1枚あたり）	マイレール券 20回分 （1枚あたり）
170円区間	3,400円 (170円)	2,890円 (144.5円)
210円区間	4,200円 (210円)	3,570円 (170.5円)
260円区間	5,200円 (260円)	4,420円 (221円)
320円区間	6,400円 (320円)	5,440円 (272円)
360円区間	7,200円 (360円)	6,120円 (306円)
400円区間	8,000円 (400円)	6,800円 (340円)
440円区間	8,800円 (440円)	7,480円 (374円)
480円区間	9,600円 (480円)	8,160円 (408円)
520円区間	10,400円 (520円)	8,840円 (442円)
570円区間	11,400円 (570円)	9,690円 (484.5円)

参考：「公共交通活性化事例」（運輸政策研究機構（公共交通支援センター））

その他②		北海道 滝川市			
バス乗車トクトクサービスカード					
①人口	43,179 人	②面積	115.82 km ²	③人口密度	372.8 人/km ²

概要

- バス乗車トクトクサービスカード事業は、滝川市内線の利用促進と中心商店街への来店機会の一層の拡大を図ることを目的として、平成 21 年度から継続的に行っている。
- 実証運行便の利用者は一乗車につき 1 枚カードを受け取ることができ、そのカードと引き換えに駅前、鈴蘭中央、銀座、大通の中心商店街エリアの取扱店でサービスを受けることができる。
- 取扱店は、商店街振興組合の協力により中心商店街エリアの各商店から募っており、各商店の負担でサービスが提供されている。

効果・工夫

<実施手法>

- カードは、市内循環バス実証運行事業により運行する東町先廻・西町先廻の計 16 便で配布する。
- カードは、バス降り口の料金箱付近にケースを貼付し、その中に設置する。バス利用者は、一乗車につき 1 枚カードを受け取り、そのカードと引き換えに取扱店のサービスを受ける。
- 取扱店は中心商店街エリアの商店街振興組合に呼びかけ参加店を募る。参加店のサービス内容は次のような例を示して協力をお願いする。

※サービス例 買物代金の割引、おまけ・記念品プレゼントの提供、
バス利用者限定商品の販売、コーヒー1杯サービス、
バス利用者限定の飲食メニューの提供、入場券割引、

- バス車内及び滝川ターミナルにカード取扱店とサービス内容を記載したご利用案内を設置する。
- カード、ご利用案内、ケースは協議会で用意し、中央バスにより設置。また、カードを乗客一人1枚取るように可能な範囲で運転手に確認を協力依頼する。







参考：滝川市地域公共交通活性化協議会ホームページ：

<http://www.city.takikawa.hokkaido.jp/200soumubu/03kikaku/koukyoukoutsuukasseika.html>